

2006.3.12

No.6

こあじ冊子

～Little Tern Project ボランティア通信～



© Little Tern Project 2005

Topic

お知らせ 2006年度 営巣地整備作業

連載 コアジサシコラム
第4回 サンディエゴにおける
アメリカコアジサシの保護活動

報告 2005年度 活動報告

スタッフ紹介

付録 2006年度 営巣地整備作業募集要項

◆お知らせ◆

2006年度 営巣地整備作業

もうすぐコアジサシが日本へやってきます。今年もコアジサシが安心して子育てできる場所を創るため、営巣地整備作業を行います。実施日は次の3日間（※4月1日は3月25日・26日で整備が終わらなかった場合の予備日）です。

詳しくは、同封のチラシをご覧ください！！

☆ 3月25日(土)・26日(日)

☆ 4月1日(土)(予備日)

連載 コアジサシコラム
第4回 『サンディエゴにおけるアメリカコアジサシの保護活動』

これまでの「連載 コアジサシコラム」では、『コアジサシは禿げる！？』、『コアジサシの雌雄の見分け方』、『コアジサシはどこへ行くのか 渡り経路の2つの可能性』と、コアジサシの特徴や、渡りについて紹介してきました。今号では少し視点を変え、コアジサシによく似た“アメリカコアジサシ”の保護活動について紹介したいと思います。紹介してくれるのは、LTP副代表の早川雅晴さんです。早川さんは、コアジサシの研究を長年続けており、2001年に森ヶ崎水再生センター（当時、森ヶ崎水処理センター）の屋上でコアジサシが営巣する以前から、屋上への営巣地誘致を提案してきた方です。

アメリカにはアメリカコアジサシ(Least Tern: *Sterna antillarum*)が生息しています。アメリカコアジサシは10数年前までは日本で見られるコアジサシ(Little Tern: *Sterna albifrons*)と同種とされていたくらい良く似ています(写真1)。合衆国の沿岸部及びミシシッピ川流域で営巣していますが、この内西海岸に生息する個体はCalifornia Least Tern(*Sterna antillarum browni*)と呼ばれ、東海岸に生息する個体とは別亜種*とされています。このCalifornia Least Ternは、営巣地の開発により1970年代には600番まで減少しましたが、絶滅危惧種に指定されるとともに保護活動が進められた結果、現在では個体数が回復してきています。

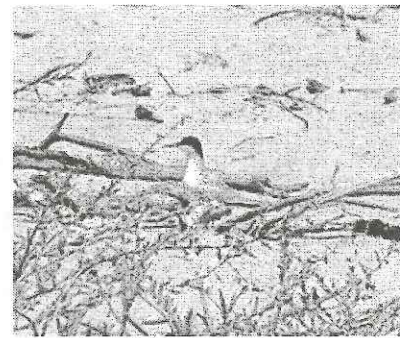


写真1

* 亜種…「種」は生物分類上の基本的な単位で、通常は同じ種の個体間でしか繁殖しない。一方、同じ種でも分布する地域により色や形に違いがみられ、地域間で異なる集団と認められる場合、これらを「亜種」という。

私は2005年7月1日～5日までサンディエゴでアメリカコアジサシの営巣のための保護区を見る機会を得ましたので、これらの保護区の様子について簡単に報告させていただきます。



写真2

今回視察した保護区は9ヶ所で、このうち8ヶ所は、ラグーンと呼ばれる河口域に広がる広大な塩水性湿地や砂浜などの自然地形の場所に作られていました(写真2)。日本でのコアジサシの営巣場所の大半が造成地などの人工的な場所であることを考えると、アメリカの広さを感じると共に、自然環境が豊かな場所を残すための保護への取組みの早さと本気さを実感しました。

これらの保護区に共通していたのは、周囲がフェンスで囲まれていて人やアライグマなどの捕食者が進入できないようになっていたことです。フェンスは高さ2m以上の頑丈な金網製のものが多く、地面に近い部分は雛が保護区の外へ出ることのないように目の細かい網が2重に取り付けられていました(写真3)。また、フェンスの壁面には看板が付けられており、アメリカコアジサシが営巣していることや進入禁止である旨が書かれていました(写真4)。

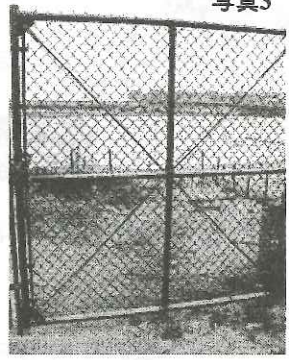


写真3



写真4

サンディエゴの研究者がアメリカコアジサシの繁殖を成功させるために最も気を使っていたのは、捕食者対策でした。保護区の周辺部には、アライグマ・キツネ・テンなどの哺乳類の捕食者の罠が幾つも設置されていました(写真5)。またフェンスの上部は、カラスやチョウゲンボウなどの鳥類の捕食者が止まることができないように長い針が張り巡らされていました(写真6)。さらにそれでも進入してくる捕食者に対しては捕えたり銃で撃ち殺すこともあるようです(写真7)。

この他、保護区内では雛をチョウゲンボウなどから守るためのシェルターも設置されていました。シェルターは、テラコッタやコンクリート製の伝統的な半円筒形の瓦を利用していました(写真8)。



写真5



写真6



写真7 (提供: Ph.D. Brian)

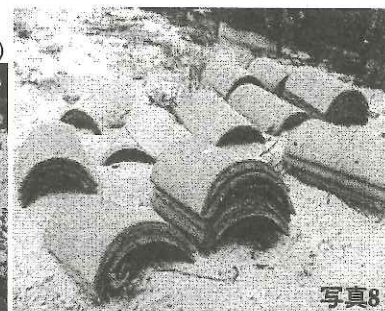


写真8

アメリカオアシサシを安全な保護区に確実に誘致するためにデコイを使っている場所が2ヶ所ありました。デコイは毎年使えるようにプラスチック製の丈夫なもので、一ヶ所に20-30個を1セットとして設置されていました(写真9)。アメリカオアシサシは日本のコアシサシのように密集した大きなコロニーを作らないことから、デコイの数が少なくても良いのかもしれませんが、日本国内でもより少ないデコイ(現在は1セット100個程度)で誘致効果がある可能性が考えられます。これらは今後のデータの集積により明らかになっていくのではないかと期待しています。



写真9

今回の視察には文部科学省科学研究費補助金の一部を使用しました。

また、サンディエゴでの視察に当たってはMs. Mika Shimadaをはじめとする多くの方々に親切にいただきました。

これらの方々に感謝すると共に、LTPとの交流が進むことを期待します。(M.H.)

リトルターン・プロジェクト 2005年度年次報告

1. 営巣地整備活動

◆作業日: 3月12日・13日・20日・21日・26日・27日

◆作業内容: 草むしり・シェルター設置・カラス除けテグス張りなど

☆休憩時間に、パネルを展示したり、コアシサシやこれまでの活動内容についてのレクチャーを実施。

3. 環境学習支援

◆パネル展示・レクチャー・モバイル作りなどを実施
エコフェスタ・ワンダーランド(中富小学校) 2月27日
東京バードフェスティバル(東京港野鳥公園)

5月14日・15日

ほたるの夕べ(森ヶ崎水再生センター) 7月20日

東京湾・まち育てセッション(葛西臨海公園) 9月19日

大森第四小学校 土曜子どもスクール(大森第四小学校) 10月22日

大田文化の森収穫祭(大田文化の森) 11月3日

大田フェスタ(平和の森公園) 11月5日・6日

2. 調査・研究

◆営巣期間中

モニタリング調査、デコイの設置、捕食者の調査

◆営巣期間後

日本鳥学会にて成果報告 9月19日

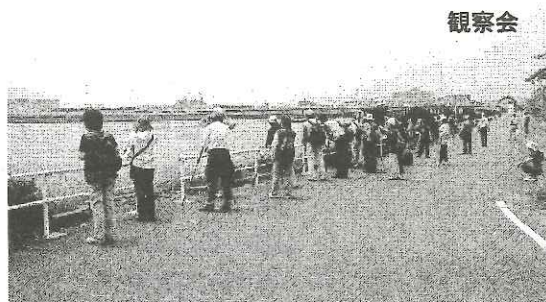
4. 観察会等の開催

◆LTP主催観察会(計3回):

5月28日、6月19日(対象:ボランティアさん)

7月2日(対象:一般)

観察会



5. 広報活動

◆ホームページによる情報発信

URL <http://www.metro-npo.net/littletern/>

◆ボランティア通信「こあじ冊子」の発行

第3号 3月5日発行

第4号 5月7日発行

第5号 11月13日発行

◆マスコミ・他団体への広報

イベントの告知や活動成果などの発信。

朝日新聞(朝刊東京版) 3月13日

NHK"おはよう日本" 3月28日

大田ケーブルネットワーク"おおたトピックス!" 6月19日

読売新聞(朝刊都民版) 11月29日 など

6. 組織としての活動

◆スタッフ会議の開催

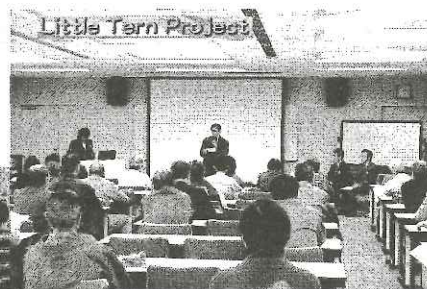
概ね、月1回のスタッフ会議の開催、事業実施・課題の検討。

◆三者会議の開催

森々崎水再生センター、大田区、リトルターン・プロジェクトの三者による話し合い。

◆報告会の開催

コアジサシの営巣成果報告会(大田区立池上会館) 12月3日



左: 大田文化の森収穫祭
右上: 報告会



スタッフ紹介

比戸 二郎(ひど じろう)

【コア環境学習部会リーダー】

大田区青少年委員

私がリトルターン・プロジェクトの活動を知ったのは、2002年12月に開催された大田区の区民大学で「区内の環境3題」のテーマでの講演でした。以前から新聞などでコアジサシの営巣は知っていましたが、区の職員の方を通じて増田さんを紹介して頂き、営巣ボランティアに参加しました。

今では、地元の代表のような顔をして、この活動を地域の子ども達に伝えると共に、一人でも多くの人たちに参加して頂き、地域の人が誇れる「人間と野生動物が共生できるまちづくり」に発展させたいと思って活動しています。

八木雄二(やぎ ゆうじ)

【コア副代表】

立教大学、清泉女子大、湘南工大非常勤講師、
東京都鳥獣保護員

参加のきっかけは、【コア代表の増田さんからの電話でした。下水処理場の屋上にコアジサシが営巣しているので、行政にはたらかけて何とかしたいから家に来てくれないか、という電話でした。調査に参加して、殺風景なコンクリートのうえや、隅に生えた草むらのなかに隠れたヒナを見て、自然の川原などで育つヒナと比べ、どうにも惨めでかわいそうになったことは忘れられません。こんなところしか場所がなかったのか、と暗澹たる思いでした。とはいえ、それまで数年、東京港野鳥公園でも、初夏にコアジサシが、ただ通過するだけになっていたのも、もしかしてそこで繁殖してくれたら、また夏の間ずっとコアジサシが水に飛び込む姿が見られる、と考えて、増田さんの試みを応援することになりました。ぼくはNPO法人東京港グリーンボランティア理事長をはじめとして、いろいろと環境保護団体の幹事役をもちこち勤めていて、LTPでは、動きがにびのままです。申し訳ないですが、法人化の進め方で、今はがんばってます。よろしく。

図書館で多くの書いた本を見つけたら、読んでみてください。ちなみに杉並区の図書館には6冊ありました。

◇ お問い合わせ先

住所: 〒143-0015 東京都大田区大森西5-10-22増田方 リトルターン・プロジェクト

E-mail: littletern_pj@hotmail.com

Tel: 080-1173-7534 (受付時間・・・10:00~20:00)

◇ HP-URL <http://www.metro-npo.net/littletern/>

◇ 発行 リトルターン・プロジェクト

◇ 編集 柴田英美

◇ イラスト・写真撮影 大塚豊・伊東真寿美・増田直也ほか